

令和8年度（2026年度）
第1回基本評価等専門委員会
会 議 録

日 時：令和8年（2026年）4月17日（金） 13:25～14:00
場 所：かでの2・7 10階 1050会議室

【出席者】

区 分	氏 名	所 属 団 体 等
委員長	武岡 明子	札幌大学地域共創学群教授
委 員	有村 幹治	室蘭工業大学大学院工学研究科教授
委 員	稻垣 美穂子	北海学園大学法学部法律学科教授
委 員	宇野 二郎	北海道大学公共政策大学院・法学部教授
委 員	葛西 さとみ	行政書士カサイ・オフィス所長
委 員	嘉藤 裕一	公募委員
委 員	武者 加苗	札幌大学地域共創学群教授
委 員	渡部 要一	北海道大学大学院工学研究院教授

【事務局（北海道）】

北海道総合政策部計画局計画推進課長 上坂 勇人

北海道総合政策部計画局計画推進課課長補佐 香取 徹也 ほか

1 開 会

2 議 事

(1) 令和8年度 基本評価における政策評価実施方針等(案)について

【武岡委員長】

- ・ 事務局から説明願う。

(事務局から資料1及び資料2-1、2-2、2-3に基づき説明)

【武岡委員長】

- ・ ただ今の説明について、質問や意見等があれば発言をお願いする。

【渡部委員】

- ・ 資料2-3の新旧対照表の新、第2の1(3)について、「施策の成果を適切に測定できる指標とする」の「測定」という言葉が気になる。「測定」というからには何か決まったものを測るというイメージがある。例えば、「定量的に評価ができる指標」にするなど、施策なので具体的に何かを測るというものではないので、それを定量化できるような指標という表現にできないものか。

【武岡委員長】

- ・ 「測定」という言葉を例えば、「定量的に評価」という言葉に置き換えてはどうかということだが。

【渡部委員】

- ・ 「測定」という言葉を普通に使われているのであれば、これでかまわないと思うが、技術的な立場から見ると「測定」と言う言葉はこういう時には使わないと思った。

【事務局】

- ・ 他の計画等で使用状況など参照しながら修正を検討する。

【有村委員】

- ・ 私も工学系であり気持ちはわかる。「測定」という言葉を使うと定量的にモニタリングできるような指標となる必要があると思うが、総合計画などものによっては、定量的なものではなく、事後的なヒアリングのみでしか評価できないものもあると思うので、あえて「定量」という言葉はいれず、「適切に」はそのまま生かして、「評価できる」くらいの柔らかさがあってもよいのではないか。

【稲垣委員】

- ・ 私も「評価」でよいと思う。

【宇野委員】

- ・ 国語の問題だが、「評価」というと指標の測定された結果があり、測定された結果＝評価ではないと思うので、もう少し検討の必要があると思う。

【有村委員】

- ・ 私も気になっていたところだが、文章だけで読むと「施策の成果を適切に評価できる指標」とあるので、評価と指標がイコールにはなっていないと思う。指標の変化を見ながら全体の施策がどれだけインパクトがあったのかということで、そのインパクトの評価を行えばよい。それが適切にできる指標であればよいことから、問題ないかと思う。

【宇野委員】

- ・ 単純に国語の問題なので、そういうふうを読むというのであればそれでもよいし、そこがイコールではないと明確にできるのであれば、「活用できる」などにしてもよいと思う。指標があつて、それを評価に活用するということだと思うので、明確にするのであればそう思うし、今の表現のままでも、今の話のようにイコールではないということであれば、確かにそうかとも思うので、このままでもよいとも思う。

【武岡委員長】

- ・ 「施策の成果を適切に評価に活用できる指標とすること」だと違和感はないか。

【宇野委員】

- ・ 私はそう思うが、逆に言葉の意味を明確にすることにもなるので、指標の位置付けなどが総合評価ではないのではないかと、指標でしっかりと定量的に測るのではないかとと言われるとあやふやになるとも思うので、表現として曖昧のままの方がよいというのであれば、今の表現のままで読めるということよいと思う。

【武岡委員長】

- ・ この点については、他の計画等の兼ね合いを事務局で調べていただき、委員長に一任させていただきたいと思う。

【事務局】

- ・ 補足だが、基本方針に「点検」や「把握」という言葉あるので、その辺を考えながら委員長と相談し、決めさせていただく。

（２）令和８年度 特定課題評価（案）について

【武岡委員長】

- ・ 事務局から説明願う。

（事務局から資料３－１、３－２に基づき説明）

【武岡委員長】

- ・ ただ今の説明について、質問や意見等があれば発言をお願いします。

【渡部委員】

- ・ 非常に良いテーマで重要なことだと思う。記載の中に就業ということで、道外からの人材については、例えば実際に働くということをイメージされていることでよいと思うが、人材育成の入口である学生などへの視点は入ってくるのか。

【事務局】

- ・ 道内からの人材の誘致の視点が大きくなるので、社会人の人達を誘致するものもあれば、医者や技術者など学生の段階から北海道に来ていただいて、そのまま北海道に就職していただくといった政策を行っているところもあるかと思うので、色々な段階でどのように誘致しているかということをもとめることにより、それぞれの取組の連携なども見ることができるのではないかと思っている。

【稲垣委員】

- ・ 資料3-1の「5 評価の視点」だが、基本評価と特定課題評価の評価の視点の違いはどこにあるのか。例えば、調書を見ると成果というものはあまり重視していないように見える。統計数値は入っているが、基本評価の時に見る成果指標みたいなものが入っていないので、どういった点が違うのかということについて、教えてほしい。

【事務局】

- ・ 基本評価と違うところは、それぞれ一つの施策について評価するものではないというところが違う。一つ一つの施策の進捗について評価するものではなく、各施策を全体として見たときに問題点や取組の進捗状況を最終的にまとめていく視点になるものかと考えている。その部分で、調書を見ていただくところが変わらと思う。ただし、施策の取組状況として見る場合は、基本評価と大きく変わらないところはあると思う。

【稲垣委員】

- ・ 成果というものはあまり重視しないということか。

【事務局】

- ・ 重視しないわけではなく成果指標以外にも広く統計データを見ながら評価を行っていただくという目的で、成果指標に限っていないということである。

【稲垣委員】

- ・ 成果指標は評価調書の中に入っていないように見えるが、これは入っていると理解してよいのか。

【渡部委員】

- ・ 評価調書の「現状と課題」の中に「直近」という欄があるから、これが現状での成果ではないのか。読みづらさがある、どこまでが課題でどこからが取組の成果なのかということが、今の調書の中では上の中に全部含まれているので、成果が見えづらい。逆にこれを分離すると比較しづらくなるので、うまくここに書かれている内容を、成果は「現状と課題」欄に入っていると見えるようにしていただいたらよいと思う。

【嘉藤委員】

- ・ 特定課題評価のテーマが道外からの人材の誘致ということだが、事前説明を受けた際には一次産業の人材をテーマとしていたと思う。道外からの人材の誘致ということで、一次産業から枠が広がった感じがするが、その背景などを教えてほしい。

【事務局】

- ・ 事前説明では一次産業の担い手の確保を仮の案として説明したが、道庁内の二次評価チーム等との調整の中で、一次産業の担い手対策はある程度体系的に進められているといった意見があった。また、道外からの誘致までをテーマとすることで、横断的に見ることができるほか、評価する範囲も大きくなり、効果的に評価できるのではと考え、テーマの案として示したところである。

【武岡委員長】

- ・ 他に発言がないようなので、参考資料3の特定課題評価の調書の様式については、事務局で検討した上で、委員長に一任させていただく。

3 その他

【武岡委員長】

- ・ 事務局から令和8年度基本評価・特定課題評価のスケジュールについて、説明願う。

(事務局から参考資料4に基づき説明)

【武岡委員長】

- ・ ただ今の説明について、質問や意見等があれば発言をお願いします。

《特段の意見等なし》

4 閉会